

テーマ 「道徳性を高める授業の展開 ～道徳の時間や各教科での授業の工夫～」

1. テーマ設定の理由

新学習指導要領が告示され、学校教育全体で道徳教育を行うことの重要性が明確にされた。このことを受け、昨年度から道徳教育の充実に向けて「中心発問のあり方」をサブテーマに研究に取り組んできた。昨年は主に道徳の時間に焦点をあて、授業実践を重ねてきた。

しかし、道徳教育は生徒が自分自身の意思で自らの生き方を磨き、判断し、自分の力で実践できる人間を育てることである。つまり、道徳教育は生徒が自分の生き方を確立するための手助けとしての教育、自分の生き方を磨くための援助となる教育と考えることができるだろう。教化のみにとらえる狭義の道徳観に基づくものであってはいけないものとする。

道徳性の発達について『中学校学習指導要領解説 道徳編』（平成20年9月 文部科学省）では次のように説明されている。

道徳性の発達は、基本的には他律から自律への方向をとる。それは、判断能力から見れば、結果を重視する見方へ、主観的な見方から客観性を重視した見方へ、一面的な見方から多面的な見方へ、などの発達が指摘できる。このような道徳性の発達は、自分自身を見つめる能力、相手のことを考える能力や相手のことを思う能力、更には、感性や情操の発達、社会的な経験や実行能力、社会的な期待や役割の自覚なども大いに関係する。

このことから、さまざまな教育活動を通して道徳性の発達を促す必要がある。

同じく『中学校解説 道徳編』第2節(1)「道徳教育と各教科等の目標、内容及び教材とのかかわり」において、「道徳教育の目標や内容と各教科の目標、内容及び教材とのかかわりを通じた道徳性の育成」が書かれており、「各教科等において道徳教育を適切に行うためには、まず、それぞれの特質に応じて道徳教育にかかわる側面を明確に把握し、「道徳的価値を意識しながら指導すること」を通して、道徳教育の効果を高めることが求められている。

また、同書には各教科の目標と道徳教育との関連についても指摘があり、その重要性は明らかである。

そこで、本年度は道徳の時間はもとより、各教科の授業においても道徳的な観点を明確にし、生徒の道徳性を養うことを目指していくこととした。

2. 本年度の研究について

① 教科会での道徳教育の観点の確認

各教科での道徳教育の観点を話し合い、授業及び年間指導計画を見直し、道徳教育との関連を探った。

② 学年会での道徳教育の見直し

各学年での道徳教育の目標を確認し、年間行事・総合的な学習等の取り組み方について話し合いをもった。

③ 教育計画の見直し

道徳の時間と学校教育全体の道徳教育との関連を目指し、それぞれの単元に道徳的なねらいを記した「学年ごとの道徳の時間との関連表」を作成した。

④ 授業研修会

昨年度の「中心発問のあり方」の研究を通して、道徳の時間を「道徳教育の不十分な部分を《補充》し、道徳的価値を個人的な自覚にまで《深化》し、さらに多様な場で学習された道徳的価値を個人の内面において《統合》する時間」と捉え、授業づくりに取り組んできた。さらに研修を深めるため、発問のしかたや教材読解、授業展開のしかたなど、師範授業をしていただき、全体での研修の場を持った。

⑤ 研究授業の実施

本年度も引き続き全体での研究授業を行った。また、各学年独自に普段から道徳の授業をお互いに参

観し合い、意見交換を行っている。

⑥ 輪番制による道徳の授業

担任の道徳の時間も確保しながら、学年に所属している先生全員で道徳の時間を受け持つ。

⑦ 指導演・教材の収集

実施した指導演・教材をふりかえりも含めてファイルした。

道徳の時間においては昨年の研究を踏まえ、資料の読解に終わらないよう、資料を通して自分を見つめ直せるものとなるように授業の組み立てを工夫した。以下は昨年の現職教育で畿央大学教授 島 恒生先生にご指導いただいた授業の組み立て方である。

導 入	ねらいとする主題への方向付け。(向く) ・ねらいにかかわる話題や場面を手がかりに問題意識を引き出す。 ・資料の補説や雰囲気づくりに使うこともある。
展 開	前 段 資料の世界に入り込み、ねらいとする道徳的問題を追求し合う。(つかむ) ・中心発問…いわゆる中心発問となる場面の発問で、児童生徒の多様な感じ方や考え方を反映させる。 ・基本発問…中心発問の問題追求を一層効果的にするために、その前後に投げかける。 ・補助発問…児童生徒の意見をより明確にしたり、深めたりするための言葉掛け。
	後 段 自分自身の問題としてとらえ直す。(見つめる) ・資料での話し合いを各自の生き方に反映させ、生活経験の話し合いなどを通して自覚を深めることができるようにする。
終 末	ねらいとする道徳的問題のまとめ。(あたためる) ・余韻を残したり、印象に残る端的なまとめをしたりする。

3. 成果と課題

各教科における道徳教育との関連を探っていく中で、教科のねらいはどのようなのか、道徳との関連した視点などないのではないか、などさまざまな議論がなされ、関連表を作成するにあたっては試行錯誤の段階であった。しかし、道徳教育について島先生からご講演をいただき、道徳の時間は実践や体験を主とするのではなく、実践の基盤としての価値の自覚を深めることに特質があり、各教科においては解説にあるように、三つの視点 (1) 道徳教育と各教科の目標、内容及び教材とのかかわり (2) 学習活動や学習態度への配慮 (3) 教師の態度や行動による感化 に主眼をおいて取り組むこととした。

この共通理解のもと、教科で道徳的な視点をもって授業に取り組んだ。教師が道徳の視点を明確にもつことで、授業の質が向上したと感じられる。それは、生徒に向き合う教師の心構えや配慮において、指導者として、人間として、生徒の道徳性の育成に大きな影響を与えるという意識の高まりがあったということであろう。教師の謙虚さ、探究心、誠実さ、その他諸々の教師の日々の姿が、道徳の目標や内容に示されている精神を実践していると自覚せねばならないことが再認識された。

また、道徳の全体計画や関連表を全職員で見直すという大変な作業ではあったが、このことによっても、学校教育全体としてより一層、道徳教育に向き合うことができていると感じられる。

道徳の授業の輪番制も2年目に入った。生徒1人1人を深く理解し、授業に向かうためには担任制の道徳の授業が望ましいことも明らかではあるが、バランス良く担任の道徳授業を計画することでカバーできたと思われる。それよりも、全職員が道徳の授業実践をし、意見交換を行い、生徒と向き合うという意識が有意義に働いていたように思われる。

学年会や朝の打ち合わせなどで担任以外の教員が個々の生徒の気になることを話し合う機会も増えた。また、どの学年も休み時間にはローカや教室に教員がいて、生徒とたわいもない話をしたり、配慮の必要な生徒を見守ったり、さまざまな場面で積極的にかかわりを持つと取り組むことができた。

だが、各教科と道徳の時間、ならびに特別活動、総合的な学習など年間を通して関連を考えたとき、まだまだ見直す必要がある部分も多い。また、道徳の授業では各学年で指導案の話し合いがもたれる場合もあるが、ほとんどが個人の力量においてなされており、指導案の検討や反省に時間を確保していく必要がある。

また、本年度実践した指導案・教材の蓄積を行っているが、他社の副読本の購入や教材開発など、さらなる質ならびに量の向上を図っていかなければならない。

さらに、現在の科学技術のめまぐるしい発展という点から考えても、生命倫理、環境倫理、情報に関する倫理的な問題など、新しい社会情勢の中で道徳的に判断を求められることが増えると予想される。たとえば、生命倫理では、DNA組み換え技術、体外受精、脳死判定による臓器移植などの問題。環境倫理では、オゾン層の破壊、自然の乱開発など地球・宇宙のあり方を問う問題。このような問題があげられよう。道徳の授業においても、生徒の多様な道徳的価値観に対応して取り組まなければならない、ねらいに迫るための工夫、生徒個々の価値観を話し合える環境作り等が必要である。今後もあらゆる場面で、あらゆる角度から、生徒がよりよい生き方を模索しようとする手助けができるよう、全職員共通の認識をもちながら取り組みを続けなければならない。

〈参考文献〉

「中学校学習指導要領解説 道徳編 平成20年9月」 文部科学省

「Q & A道徳的实践力を高める道徳授業の改善のポイント」 岩上 薫 編集

教育開発研究所 2009.9

「生徒の心に響く中学校道徳授業～願いや思いをもつことから始める」

松原 好弘 著 明治図書2009.8

「中学校 新学習指導要領の展開 道徳編」 加倉井 隆 著 明治図書 2008.12

「新教育課程の授業戦略No.4 各教科で行う道徳的指導」 押谷 由夫 著 教育開発研究所

平成21年7月

「三訂 道徳教育を学ぶ人のために」 小寺正一 藤永芳純 著 世界思想社 2010.4

- ① 主題名 「法やきまりの遵守、権利と義務、社会の秩序と規律」4 - (1)
② 資料名 「融通がきく・・・」

③ 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

個人の権利という言葉があるが、個人の思いがすべてに優先されるわけではない。もちろん、個人の考えや言動は守られてしかるべき権利がある。また、社会の仕組みや規範が個人を支配する世界にも問題があるのは間違いない。しかし、だからこそ社会生活を営む上で、社会の一員として守るべきものとして法やきまりをとらえて実行していくことの重要性を考えさせたい。

このように法やきまりを守ろうとすることがいかに重要であるのかということを考えさせることで、社会の中で果たす自分自身の役割の重要性にも気付かせられればと考える。

(2) 生徒について

中学一年生という年齢は、心の成長が著しい年齢である。特に自分自身への誇り、或いは一步間違えと自己中心的になりかねないほどの自意識の高まりなどがあるのではないか？

本クラス1-Aは、総じて年齢以上に幼い面があり、強い正義感を持つとともに誘惑に弱い面も持っている。そのため、他者の失敗や触法行為にはめっほう批判的であるが、自分自身についての行為は認めながらも理由をつけて許されようとするところがある。

そのため、目に見えにくいクラスや学校、一般社会という集団を作っていくために必要な法やきまりの存在やそれらをしっかりと守ろうという意識は決して高くはない。言動として道徳的に正しい方向性を知識としては理解しているが、実際の言動を道徳的により積極的に行う生徒は多くない。

そこには、法やきまりを守らなくてはならない場面で、自分なりの理由をつけてしまうことが原因として存在する。

このままでは、本当に大事な判断をしなければならないときに法やきまりを遵守したうえでの答えが出せなくなるのではないかと考えた。少なくとも、法やきまりを守ろうとするに道徳的な意識を持ったうえで、十分に考えて答えをだせるようにしたいと考えた。

(3) 資料について

生徒がよく見たり経験したりするが、決して生徒そのものが係わらないもの中心にしないようにと資料を作った。そうすることで、生徒自身の中にある正しい道徳観を導き出せるのではないかと考えたからだ。

授業としては、禁煙車両で乗客がたばこを吸い始めた場面を中心に、これまでの法やきまりについての考えや行動について考えさせたい。

そして、資料のように法やきまりを自分中心に考えて行動し臨機応変に変化させていく結果、他人にもきまりを守る義務を求めていくことができなくなるし、きまりそのものが崩れてしまい意味をもたなくなってしまうことなどを思い起こさせたい。

できれば、みんなで社会を上げるために法やきまりをみんなで守る必要があるという意識を持つことの重要性にも気付かせたい。

④ 本時の目標

みんなが社会生活をすごすためには、法やきまりが元になっているのだということに気付かせる。

⑤ 本時の展開

	学 習 内 容	発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導 入	日頃の生活の中での「きまり」や「法」について話を出し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車のヘルメットをかぶっていない。 ・下校時に買い食いをしている。 ・信号無視をしたことがある。 ・何のために法はあるのか。 ・大人が守っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なるべく、きまりや法を守っていない意見や気持ちを引き出し、その理由を心のままに発表させる。
展 開	<p>資料を読む。 【五つをバラバラに配布する】 それぞれの場面ごとに感想や意見・思いを話してもらおう。 を通して、5人の意見について感じたことを発表する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ルールやきまりとはというインタビューへの三人とトシ子おばさん、たばこを吸った男のだれの意見に近いのかを気持ちとともに発表させる。 </div> <p>※京 子・自分が悪いのに人のせいにしている。 ・あの言い方をされたら、私も腹が立つ。 ・私もしたことがある。</p> <p>※由美子・由美子の言うように自由にすればいい。 ・ちょっと極端な意見ではないかな。 ・由美子は自分勝手</p> <p>※和 美・正しいことを言っている。 ・自分が言われると立場を変える。 ・けっこう自己中心的かも</p> <p>※トシ子おばさん ・正しいことを言っている。 ・正しいことを言っているけども、気分が悪い。</p> <p>※たばこを吸った男 ・理屈はわかるけど・・・どこか間違っている。 ・迷惑さえかけなきゃ、それでいい。</p>	<p>どの場面もそれなりに理由はあるが、すべて自己中心的なものであることに気付かせる。</p>
開	五人を通して、きまりやルールについて見たときにどう思う？	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> それぞれの意見の元となる気持ちと「きまり」とはどんな関係かを考えさせる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・みんな自己中心的。 ・自分の理屈だけ。 ・勝手にルールを解釈している。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> きまりを守るということについて考える。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・きまりをどうやって守っていけばいいか、わからなくなった。 ・きまりは守らなきゃ。 	
終 末	心のノートP92～93を前に映す。	<ul style="list-style-type: none"> ・きまりについて、今日の授業で感じたことを書いてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳ノートに記入させる。

⑥ 結果と考察

ルールや規則は大切だと言うことは誰もが知っている。だが、多くの人は自分の中で“これくらいならかまわない”或いは“こういう場合は仕方ない”といった自分だけの理由をつけてルールや規則を消極的に破ってしまうことがある。特に中学生になると小学生の頃の素直さが消えてしまい、規則やルールに上記のような自分だけが納得できる理由を要求し出す。もちろん、正しい要求であることも多いが、自分を正当化するだけのものも多い。本校の生徒は能力的には高いが、精神的には若い生徒が多いので、どうしても自分だけが納得できる理由を要求する者が多い傾向にある。

教師側【大人側】として、正しい理由を提示することで彼らは表面的には納得するが、結局それぞれの場面で細かな理由付けを一から提示することになってしまう。それでは生徒の道徳性が高まったとは言えない。彼ら自身が資料のキャラクターを通して、生徒の心の中に沈んでしまっているルールや規則を守る心を生徒自身に見つけさせたいという思いでこの教材を作り上げた。

全体的な振り返りとしては・・・導入部分で「日常生活における規範意識」についての話し合いは、千差万別の意見が出てきた。そのほとんどが、ルールは守らなければならないと考えたものであった。おかげで、このままで話し合いを続けても面白いと思えた。しかし、それでは生徒の心の中に潜んでいる自分だけを正当化する心を見つけ、それを改めるように考えさせることが出来ない。

そのために、自分を正当化し他者を批判する五人（京子・由美子・和美・トシ子おばさん・たばこを吸った男）の人物の意見を提示したのだ。

それぞれの人の意見について生徒各自は、共感できる人とできない人がいることにすぐに気づいた。しかし、実は全ての意見が自分勝手なものであることにはなかなか気づけなかった。

その原因として、五人の意見の文章が長すぎたことと内容にばらつきができたことがあげられる。判読するだけで、かなりの時間がかかった。その時間を互いの意見【自分自身の持つ道徳性】の示し合いに回すほうがより効果的だった。また、そのためには五人の意見が一つの事象について身勝手な意見を述べていることをわかりやすく効果的な文章に練り直す必要があると考えた。

最大の反省点は、道徳とは行動ではなく心の教育であることを理屈では分かっている、いざ授業となると忘れてしまうことだ。

教材上のことは準備をしてきたこともあり、そうそう間違いはしなかった。だが、生徒の意見を拾い上げるときには、行動そのものについて深める質問をしてみたり、単純に何故だろうと問いかけてしまったりした。心を問いかけているのだということ意識することを持続することの難しさを改めてしつた。

また、オリジナルの教材を作ることは自分のクラスの特徴に応じたものを作れる反面、あれもこれも教えたいと欲張ってしまって教材を読解することに時間を費やしてしまうこともよく分かった。

今後の課題として、オリジナルの教材を作る場合には『クラスにふさわしい内容であること』と『時間配分を考えた文章量になっているか』を考えなければならない。そのために、これからも率先して道徳の授業に意欲的に取り組んでいかなければならない。



生徒の感想

- ・ 迷惑かどうかは、周りの人が決めることだと思う。一人一人が勝手をしていたら、決まりやルールはなくなってしまう。
- ・ ルールや決まりは、人によって考え方が違うんだなと思った。でも、自分の考えで全部動くと周りの迷惑になったりもするかもしれないし、めちゃくちゃになると思うので、できるだけ守っていった方がいいと思いました。
- ・ いままでにも、ルールなどを考えた授業もしたけど、この授業は違って、自分たちと同じ視線でみてくれたので、とてもこの人達の気持ちがありました。だから、自分の意見がたくさん出てきて、感情がわいてきました。
- ・ 私は、このみんなの意見に、少し納得できるものもあります。自転車で急いでしまっているときで、車が通っていなかったら、渡ってしまって・・・ルールを破ってしまうかもしれません。だから、何とも言えませんが…悪い！！危ない！！ということは分かります。一人一人がそういう風に思って、努力することができれば、悪いこと危ないことはなくなっていくと思います。だから、このように心がけていくことが大切だと思いました。
- ・ 今日の授業で、京子達の意見を聞いて色々な意見があるんだなあと思いました。それと、だいたいの方は守らなきゃいけないと思っているけど、守らないときもあって・・・。授業で誰かが言っていたように、努力してそれを少なくしていかなければいけないと思いました。
- ・ この五人の話を見て、相手のことばかり一杯言うけれど、自分のことは棚に上げている気がしました。自分に都合のいいことばかりで、相手のことを考えてなくて・・・自分勝手だと思いました。もしかしたら、自分にもこんな自分勝手なところがあるかもしれないので、もう一度自分をちゃんと見直そうと思いました。そして、ルールや決まりは、みんなが気持ちよく過ごすためのものなのかなって思いました。
- ・ 改めて、ルールについて考えた。少しくらいなら破ってもいいんちゃうんって人が多かったんだけど、その時にその事故が自分に来たら、相手が悪いと言えるか？それが、命に関わることにならないと言えるか？だから、言葉と行動をしっかりと見直して、相手のことを考えて安全に生活を送りたいと思います。
- ・ ルールとか約束は、バランスの取り方が非常に難しいと思う。ゆるすぎるルールとかだと社会は成り立っていかないし、かといって厳しすぎても今度は生活の中でも限られてくることもある。だから、ちょうどいいバランスのルールを作っていくといけないといけない。難しいけど、みんなの協力があれば可能だと思う。
- ・ 色々な考えを持った人がたくさんいるから、やっぱりルールは守った方がいい。なぜなら、ルールや規則を守らない人が増えると、人のことを悪く言うことも増えるからだ。
- ・ ルールや決まりは、決まってあるけれど・・・そのルールをきちんと分かっているようで分かっていたような気がしてきました。ルールや決まりは、世界中それぞれに違う決まり事なので、小さなことからきっちりと一つ一つ守っていくといけないなと思いました。

融通がきく・・・

みんなはルールやきまりについて、いろいろな考えがあるよね。

スポーツのルール。学校のきまり。交通ルール。

色々なルールやきまりがあるけど・・・今日は、ルールやきまりについて考えてほしいなあ。

①京子の場合。

きまり？う～ん・・・守らなきゃだめかなあ？あっ！！でも、今朝なんだけどね。ちょっと寝坊しちゃってね。まあ、昨日の夜遅くまでゲームに夢中になっていたからなんだけど・・・でも、ちゃんと自分で起きたんだよ！！あわてて自転車走らしてさ。なにしろバレー部の朝練習に遅れると先輩うるさいしさ。

でね、学校の前の交差点に近づいたのよ。この交差点って、とても見通しが良くて車が走ってないのが、ばっちり見えてるの。信号は点滅していたみたいだけど、車来てないでしょ？すつと行こうとしたら・・・

「点滅してるわよ。京子ちゃん！！」とトシ子おばさんに止められたのよ。びっくりするじゃない。慌ててこげかけちゃったわよ。でも、まあ、知り合いだし・・・一応、言うことは聞いたけどさ。こっちは、朝練に遅れるかどうかってことでしょ。丁寧に「朝練に遅れそうなんです。車も来てないし・・・」っていったんだけど。「もう、赤信号よ。次の信号を待っても、2、3分なんだから・・・。あわてないで待ちなさい。」の一点張りなのよ。どう思う。イライラしちゃうわよね。融通が利かないわよね！！

②由美子の場合。

ルールやきまり？別にどうだっていいんじゃないかなあ？難しく考えなくてもいいんじゃないかあ。そうそう、そう言えば友達京子が、朝練に行くときに学校前の横断歩道で車が一台も来てないのに渡らせてくれないってえらく怒っていたわ。しかも、毎日らしいわ。毎日！！交通のおばさんってうどん屋のトシ子おばさんでしょ！！あのおばさんうるさいのよね～私も止められたわ。だいたい、車が来たらわかるから渡らないって！ほんと融通が利かないわよね。石頭って感じよね。おかげで、私も遅刻しちゃったことあるし、先生に怒られちゃうし・・・。そうそう、この間テレビで見たんだけど、外国だと自分が安全だと判断したら、きまりなんか無視して赤信号でも渡るんでしょ。きまりなんか無視しちゃうんだよ・・・。自由って感じでいいわよね～。そう思わない？思うでしょ！！ね、ね。その場で考えて、いかなきゃね。ルールなんてそんなもんでしょ。きまりなんかまじめに守っていたら人間が小さくなっちゃうわよ～。融通が利かないって大人が言うじゃない？ほんとそんな感じになっちゃいたくないもんね。

③和美の場合。

ルールですか？そりゃ、守るもんでしょ。当たり前じゃないですか。さっき由美子が、インタビューされて答えているのを聞いていましたが・・・外国の話をしていましたよね？外国だと安全だと判断したら、道路を渡っちゃうって話していたでしょ？あの娘は、すぐにその話をするんですよ。でも、その話って何かあったら自分で責任をとるってことを本人は分かっているんですよ。こんなこといったら、すぐに「きまりなんか守っていたら、何か小さな人間になっちゃいそう」なんて言うんですよ。ほんと、適当って言うか・・・きまりやルールをちゃんと守ろうって気がないんですよ。

あっ！そう言えば、この間も電車に乗ろうとしていたら、いつも交通指導しているトシ子おばさんが突然怒ってくるんですよ。電車のドアが、私たちの前で止まったの。割り込む気なんて、全然なかったのよ。でも、前でドアがあいたら普通に乗るでしょ？そしたら、「ちゃんと並んでる私たちが先でしょ！！」って。もう、すごい勢いで、びっくりしっちゃったわ。電車は空いてるし、慌てなくても座れるし・・・そんな話をしたら、「席に座るために並んでいるのじゃないの！！安全に乗るためでしょ！！」って逆切れされて・・・私の前の隙間に体を割り込んできたのよ。どう思います？私、乗りませんでしたよ。だって、気分が悪い

じゃないですか！！ほんと大人こそルールやきまりを守ってほしいですね。

大人なのに融通がきかないって問題ありますよね。

④ トシ子おばさんの場合。

最近の若い子は、ルールやきまりなんて守る気ありませんよね。私も長いこと・・・そうねえ、20年以上交通指導してきましたが、ずっと昔の子供は注意されたら、ごめんなさいって素直に言ったものよ。この間も、青が点滅しているのに自転車で突っ込んでくるんですよ。慌てて止めましたよ。そしたら、なんて言ったと思います。「車が来てないから、大丈夫です」ですって。何を考えてるんですかねえ。あああ！！聞いてくださいよ。この間、駅で電車を待っていた時のことなんですけど・・・車両が入ってきたの。もちろん、私は友人はちゃんと並んでましたよ。乗降口前の線でちゃんとね。でもね、電車が少し手前に止まっちゃたのよ。そしたら、びっくりするわよね。ちゃんと並んでなかった中学生が、勝手に乗り込もうとするのよ。まるで悪気なく乗ろうとするのよ。信じられないわよね。思わず、注意しちゃったわ。そしたら、また「まだ、乗れますよ」とか「慌てなくても」とかささん言っって・・・あげく嫌そうな顔をして乗らないのよ。嫌よね～最近の子供って！！

あつ、でも指導員はやめませんよ。だってちゃんと注意すればわかるんですから。子供には、愛情を持って接しないとね。大人が融通きかせてあげないとね。

⑤ タバコを吸っていたおじさんの場合。

おう？なんだよ。タバコ吸っているのに、そんなに文句あるの？んっ？インタビュー？ルールやきまりについて？そう！それだよ！！そのきまりやらルールってのは、どうなんだい。禁煙なんていうけどさ、ようは人の迷惑になるからだろ！迷惑にならないようにすりゃ問題ないんじゃないか。タバコでも、何でもさ！

おりゃ、人の迷惑になるようなこたあしねえよ。今だって、ちゃんと携帯灰皿も持っているしさ、このベンチのそばにだって、誰もいねえだろ？ん？ここは禁煙地区だって？おいおい、どこに目えつけてんだよ。誰もいねえじゃねえか。誰もいねえ所でタバコ吸って何が迷惑なんだよ？そういやあ、こないだもそんなこと言う学生がいたなあ・・・。バス中でよ。俺と距離も離れてるし、窓も開けているし、運転手も何にもいわねえのに・・・誰にも迷惑掛けてねえのにさ！！人がせっかく、気持ちよくタバコ吸ってんのに文句つけやがんだ。わざと咳払いとかしてさ。ありゃ、やだね。最近の学生さんてのは、あれだ・・・個人主義ってのか？自由にものを言うってのか。大人に対して好き勝手に言うよな・・・そうそう、子供の権利とかなんとかってさ！！

ルールやきまりなんてのは、人間が作ったんだろ？だったら、その場その場で人間が変えていかなきゃどうすんだよ？思わねえかい！！嫌だねえ～頭の固い人はよ。ほんと融通きかねえなあ～。

- ① 主題名 「生き様としての誇り」 内容項目（1 - (2) 理想の実現）
② 資料名 「人生とは旅であり、旅とは人生である」（出典「NAKATA NET」中田英寿ホームページ）

③ 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

生涯をかけての理想や目標をもつことが、日々の生活を充実することにつながることに気付かせ、困難に屈しないで粘り強く最後まで着実にやり抜く強い意志と態度を育てる。

(2) 生徒について

3年生になって修学旅行も終え、仲間作りがある程度進んだ状態ではあるが、クラス全員と交流が進んでいるわけではなく、数名と交流が進んでいる状態である。授業での発言も多く、積極的な生徒が多い。部活動に加入している生徒は多いが、習い事を同時にしている生徒も多く、一つの事に熱中するのではなく、学習とその他の習い事を含めて様々なことに取り組んでいる生徒が多い。その生徒たちが、一つのことをやり遂げた人間の生き方を通して、目標へ向かって希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志を育てたい。

(3) 資料について

前回のサッカーワールドカップで日本の中心選手であった中田英寿が、最終戦終了後に自らのブログに綴った詩が本時の資料である。この大会を最後にサッカーを引退することを決めていた中田氏は、彼の栄光のサッカー人生とその苦悩を綴っている。プロとして、日本代表として自らを厳しく律し、個人としてもチームとしても世界と戦えるレベルであろうとした彼は、自分の生き方に誇りを抱いていた。ワールドカップ最終戦終了時の彼の行動とブログの資料から、困難に屈しないで粘り強く最後までやり遂げる強い意志を育て、その生き方に誇りを持てるようにつなげていきたい。

④ 本時の目標

常に目標を高く設定することで自らを厳しく律して努力を続けたサッカー日本代表の中心選手として活躍した中田英寿の生き方を通して、より高い目標を目指し、着実にやり抜く強い意志と態度を育て、自分の生き方に誇りをもてるように意識させたい。

⑤ 本時の展開

	学 習 活 動	発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導 入	1. サッカーワールドカップ状況と中田氏の紹介	ワールドカップの結果や選手を紹介しながら自由な雰囲気です。	PPで写真を紹介
展 開	2. 中田氏のサッカー人生を確認する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. サッカーを始めた頃の中田選手の気持ちを抜き出してみよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ひたすらゲームを楽しんだ。 ・ボールを蹴ることに夢中であった。 2. サッカーが彼に与えたものは何か。 <ul style="list-style-type: none"> ・喜び、悲しみ、友、試練。 3. うまくいっている時はどんな気持ちになるのだろう。 <ul style="list-style-type: none"> ・何でもできると錯覚するほどの賞賛を浴びる。 4. うまくいっていないときはどんな気持ちなのだろう。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の存在価値を全て否定されるような批判に苛まれる。 5. プロになって「サッカー好きですか？」と聞かれて「好きだよ」と素直にいけないのはどうしてだろう。 <ul style="list-style-type: none"> ・勝たなければいけないプレッシャーの中でサッカーを楽しむ事ができなくなっていったから。 6. 引退する理由は何か。 <ul style="list-style-type: none"> ・責任を負って戦うことに疲れた。 ・自分のやり方を上手に伝えられない状態に限界を感じたから。 7. ブラジル戦が終わった後に、こみ上げてきた大きな感情とは何か？ <ul style="list-style-type: none"> ・サッカーを愛してやまない純粋な気持ち。 ・幼少のころ夢中にボールを蹴っていた気持ち。 	「NAKATANET」のHPを見せ、詩を配る
	3. サッカーを通して得たもの失ったものを確認する。	<ol style="list-style-type: none"> 8. これまで中田氏が抱えてきた“誇り”とは何か。 <ul style="list-style-type: none"> ・厳しい勝負の世界の中でプロとして日本代表の主将として世界と勝負するためすべてをサッカーに捧げてきたこと。 9. 学生の君たちは3年間のクラブ活動や習い事、15年間の義務教育を終えるにあたって、最後の大会や残りの日々をどのような気持ちで過ごし、どのような引退の仕方をしようと思いますか。 	
終 末	4. 中田氏の誇りからどのような生き方が誇りに思えるかを考える。	<ol style="list-style-type: none"> 10. 君の誇りは何ですか？ 	
	5. 部活動などを引退する前に、自分の今までの取り組みを振り返りながら、今後の生き方を考える。		

⑥ 結果と考察

2002、2006年のサッカーワールドカップで中心選手として活躍し、当時はマスコミで大きく取り上げられ、新聞、雑誌、テレビでは特集も報道され、知名度も高かった中田英寿選手であったが、2006年のワールドカップ終了後に引退してからは報道されることが少なくなった。中田英寿を扱う授業は2回目であるが、1回目は2006年であったため、生徒の反応も大きく、手ごたえを感じていた。今回の授業では中田選手の知名度が低いため、特に女子生徒は中田選手を知らない生徒が多かったため、前半は中田選手の紹介が多く、DVDやPCなどのICTを活用し、華やかなトップアスリートの世界を提示した。

中盤からは、2006年のワールドカップを最後に引退すると決意していた中田選手の引退表明である彼自身のHPに綴った詩「人生とは旅であり、旅とは人生である」の詩を扱って、華やかなトップアスリートの栄光と苦悩に迫った。マスコミ・世論・チームメイトそして自分自身に対しても厳しく接して、世界と戦える状態にもっていこうと日々努力を続けていた中田英寿の当時の様子から彼の強い信念と覚悟を知ることによって、努力することの大切さ、やり遂げることの難しさと達成感、そして彼自身が自分の生き様に誇りをもって生きてきたことに気づくように展開した。

終盤は、生徒自身の中学3年間の活動を振り返らせ、部活や習い事の区切りをどのようにつけるか、最後の試合やコンクールにどのように臨むか、最後の瞬間にこみ上げてくる感情はどのようなものになるか、中学3年間・義務教育9年間の中で誇れるものがあるかどうかを考えさせる時間とした。

授業構成は以上であるが、中田英寿を知らない生徒が多かったため、DVDのどの部分を見せるか、ここまで見せたらわかりやすいが時間が足りなくなる、この設問がある方が次へ繋がりやすいが時間が足りなくなる、設問が続きすぎると、生徒は課題演習のようで集中力が下がるなどジレンマの連続であった。また、本校は習い事をしている生徒が多く、部活動に熱中している生徒数も公立校に比べると比較的少ないため、1つのことに熱中してやり遂げることを共感できる生徒の数も少なかったように感じた。その後の生徒の様子を見ていると、部活動が終わる前よりも、終わった後のほうが、最後の大会での経験から中田英寿の気持ちが理解しやすいようで、6月の研究授業から3カ月経った夏休みが終わってからの感想文に、「共に努力した仲間と頑張った自分を誇りに思う」など努力することの大切さとやり遂げることの達成感を綴った文章が見られた。本教材は、内容の濃いインパクトのある教材であるが、中田英寿の今後の知名度の具合や時期、さらに狙いをより明確にしながら取り扱うと効果が期待できると考える。

